

<別記 6>

平成30年度 再評価対象事業一覧表

平成30年10月作成

整理 番号	事業計画						再評価の 理由※2	再評価の視点														
	事業名	施設名	事業 主体	事業箇所	事業概要	工期		事業進捗の状況及び見込み					上位計画への位置づけ、 関連事業の状況	社会経済 情勢の変化	地元等 の意向	費用対効果分析		コスト削減 及び 代替案立案の 可能性の有無	前回 審議 年度	対応 方針 (原案)		
						着工		完了	事業費 (億円)	前年度迄 事業費	進捗率	用地 進捗率				H30年度 事業費	H31年度 以降事業費				B/C	
						上段：当初※1 下段：変更				(億円)	(%)	(%) ※3				(億円)	(億円)				当初 ※1	現行
道建- 2	道路改築事業	一般県道奥ノ平時 津線(時津工区)	県	西彼杵 郡時津 町	延長 L=3,400m 幅員 L=7.0(10.5)m	H26	H32	89.0	事業採択後 5年経過 ②	40.7	30.6	85 (89)	5.8	86.5	・長崎県総合計画チャレンジ2020 10-(1)-2「高規格幹線道路・地域 高規格道路の整備による高速 ネットワークの構築」に位置付け られている。 ・西彼杵道路の整備状況 指方バイパス(H17~H23完成) 西海パールラインⅠ期 (H3~H10完成) 西海パールラインⅡ期 (H9~H17完成) 小迎バイパス(H13~H24完成)	・近隣の時津第10工区で埋 立造成・販売等を進めてお り、隣接する国道206号の 交通量が増加している状 況。	・「時津町」「島原 半島幹線道路網 建設促進期成会」 「長崎県商工会議 所連合会」から整 備促進の要望を受 けている。	1.40	1.24	【プラス要因】 ・交通量の増加 (時津町の埋立開 発に伴う) ・小型貨物車の原 単位の変更(平成 30年2月の費用便 益分析マニュアル 改定に伴う) ・建設発生土の他 工区流用等、今 後も可能な限りコ スト削減を図る。 【マイナス要因】 ・事業費の増(土 質の相違に伴う 工事内容の変更) ・工期の延長(各 種対策工事の追 加に伴う事業量 の増加等)	-	継続
			H26	H34	133.0																	
道維- 8	街路事業	西高田線	町	西彼杵 郡長 与町	延長 L=1,330m 幅員 L=14m	H15	H31	46.0	再評価後変更 ⑩	27.0	62.8	73 (80)	1.8	14.2	・本事業と関連する組合施行の 榎の鼻土地区画整理事業(H24 ~H30)の完成。 ・本路線に接続する路線につい て当面整備の見通しが立たな いことから、JR長崎旧線との交 差位置並びに交差方式の変更 が必要となっている。 ・未着手区間(現道拡幅区間) の横断面構成について沿道利用 状況や実態調査結果等の動向 を含めた再検討を行い、改めて 現時点で求められる機能に応 じた横断面構成に見直すことで、 地元の合意形成や事業の実施 環境(事業費確保等)などの円 滑化を図り、早期完成を目指す 必要がある。	事業の進捗に伴 い、 地元自治会より未 整備区間(現道拡 幅区間)の交通環 境改善に向けた早 期完成が望まれて いる。	【プラス要因】 ・事業費の減 【マイナス要因】 ・工期延長 ・発生残土の他工 事流用など、可能 な限りコスト削減 を図る。 ・代替案の可能性 はない。	1.93	1.52	H29	見直し 継続	
			H15	H38	43.0																	

※1 2回目以降の再評価の場合、「当初」は「前回」と置き換えている。

※2 「再評価の理由」の項目一覧

区分	水産庁、農林水産省 林野庁関係事業 実施時期	国土交通省関係事業 実施時期
未着工	事業採択後5年未着工	
長期継続	事業採択後5年経過 (補助事業)	事業採択後10(5)年経過 (交付金事業)
	再評価の必要性の判断基準に該当する事業 事業採択後6~9年目 (交付金事業)	
	事業期間5年以内の事業が大幅に工期が延びる見込み 事業採択後5年経過 (交付金事業)	
準備・計画	準備・計画段階 予算化後5年経過	
再評価後	再評価後5年経過 (補助・交付金事業)	再評価後10年経過 (下水道事業)
	再評価実施後、工期延長または事業費増額の変更を行う事業 変更前の工期または事業費を超過する前年度まで	
その他	社会経済情勢の急激な変化等 (適宜)	

③: 10年経過
④: 5年経過
(5年経過時点で再評価が必要と判断)

←H30年度から追加

←H30年度から追加

長崎県公共事業評価監視委員会運営要領<別記1>より

※3 用地進捗率の上段は「事業費ベース」、下段()書きは「契約(面積)ベース」である。